

延文えんぶんの頃ころ、小松村こまつむらの豪族ごうぞくに小松弾正こまつだんじやう包家かねいえという人がおつただど。ここの住人の法心ほうしん・妙みやう円えんの二人が救世觀世音くぜかんぜおんの化身くわんといわれる聖徳太子せいとくたいしをこのお不動様ふどうさまのお堂どうに一緒いっしょにお祀りまつしただど。

ところが、夜な夜な、太子様たいしさまとお不動様ふどうさまが、

「ここは、私の場所だ。」

と言って喧嘩けんかをして、しかたがながつたので、この様子ようすを見かねた村人たちは、お不動様ふどうさまと太子様たいしさまのお堂どうを別々べつべつに建立こんりゆうしただど。お不動様ふどうさまと太子様たいしさまのお堂どうを別々べつべつに建てたところから「二堂村ふたつどうむら」と呼ばれるようになっただど。その後、保科正之公ほしなまさゆきこうの時代じだいの寛文かんぶんの頃ころに二堂村ふたつどうむらを「両堂村りやうどうむら」と改めたんだど。

ある時、両堂で火事があっただど。その火は勢いきりが強く、お不動様ふどうさまのお堂どうが燃えそうになつてな、あわやの事態じたいになつただど。すると、沼つぼの中から数百数千ひゃくちゆうせんの螺つぶが

「お不動様ふどうさまをお守りすんべ。」